

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202780		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川口		
所在地	埼玉県川口市安行領根岸861-2		
自己評価作成日	令和3年10月21日	評価結果市町村受理日	3.2-6

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和3年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護経験年数が多い介護職員が多く、当事業所に5年以上勤務している職員も多くいる。またここ半年で新しく入職した職員も新卒含め4名在籍しており、今までと違った新しい視点を持った職員もおり新しい変化もある。日々の生活は利用者様のペースで過ごして頂いているが行事やイベントの際は職員団結してご利用者様に楽しんで頂けるものを用意している。新型コロナウイルス感染防止の環境の中笑顔でご利用者様・職員ともにすごしてくれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東京外環自動車道インターチェンジ近くに位置する、2ユニット18名定員のグループホームである。ホームの目の前が芝川の土手になっており、天気の良い日には川沿いの遊歩道を散歩する人が多く、四季折々に変わる風景を楽しめる環境となっている。昨年、人事異動がありホーム長が交代し、新しい職員も加わり、新しい視点を取り入れ、より良い支援に向けた取組みを目指している。「笑顔と笑い声あふれるホーム」を念頭に、長年勤める職員と新しい職員が協力し合い、意見の言いやすい環境作りに努めている。現在、コロナ感染防止のため、オレンジカフェの休止や運営推進会議の外部参加者の不参加、近隣の学校や幼稚園との交流が途絶えているが、収束後の地域との積極的な交流再開に向け、自治会長と頻りに連絡を取り合っているところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「コミュニケーションを大切にする」を掲げ全職員は認知症の特性を良く理解して、ご入居者様の立場に立ち、ニーズがどこにあるかに焦点をあてて、コミュニケーションを図っている。	理念である「コミュニケーションを大切にする」を掲げ、利用者の笑顔と笑い声があふれるホーム作りを実践している。理念は職員全員が理解しやすいものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町会長・民生委員・地域包括支援センターの参加をお願いしている。	自治会に加入しており、回覧版から地域の情報を得ている。自治会の行事に参加し、土手の草むしりなどを行っている。コロナの感染を考慮し、利用者の参加は控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在新型コロナウイルス感染防止の為地域との交流を中止している。自治会の会合に参加しグループホームとはという話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染防止の為施設での開催を中止している。中止の連絡と共に現在の施設での取り組みや状況をお伝えしている。面会に関してご家族様からお電話で意見を頂いている。	コロナ禍により外部の参加者は招集せず、ホーム内のみで開催し、報告事項やホームの様子を記した書面を家族宛に送っている。今後は外部参加者に向け、ZOOM開催等を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護のご入居者様に関する事は、市の担当者と連絡を取り、協力関係を築いている。	市とはメールで頻繁に連絡を取り合っている。コロナ対策の手袋などの配布物を取りに行ったり、PCR検査について市担当者の訪問があり、ワクチン接種の情報を頂き、無事に接種することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為は正しく理解しているが、玄関の施錠は外部からの不法侵入等を防ぐため止む負えずオートロックをしている。身体拘束廃止委員会3ヵ月に1回、身体拘束廃止研修年2回行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、研修を年2回、虐待防止委員会は年4回、研修を1回実施している。全社的に取り組んでおり、職員は十分に正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期開催し、防止に努めている。虐待防止委員会を年4回・虐待防止研修を1回行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修予定を見やすい所に貼りだし職員に参加を呼び掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をかけて、懇切丁寧に説明と同意を得ている。解約の際は、話をよく伺っている。改定の際は、文書で説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、ホーム長、管理者、計画作成担当者が、意見を聞く様に努めている。玄関には、お客様相談係行きの意見記入用紙が常備してある。	家族の意見は電話や訪問時に確認をするようにしている。利用者からは日常の中での会話などから意向を引き出すようにしている。意見などは主にホーム長が判断し対応しているが、内容によっては本部マネージャーに相談をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員とのコミュニケーションを良く取り改善すべき点があればなるべく迅速に解決している。	毎月開催の職員会議で職員の意見・提案を聞く機会があるが、普段から何でも言える環境ができており、必要な事項は迅速に対応することを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と、年2回の個別面談を実施している。 職員の希望出勤日数を聞き、なるべく希望に添えるようシフトを調節している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に対する法人内の研修があるので参加して頂くと共に研修内容を職員会議で発表して頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で管理者会議が月1回あり。情報の共有・交換を行っている。その内容は職員会議等で周知している。また代表者と管理者で個人面談を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査を丁寧に実施している。また、一ヶ月の暫定プランを作成し、暫定プランの期間中に丁寧なアセスメントを実施している。ご本人様とのコミュニケーションを重視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査を丁寧に実施している。また、一ヶ月の暫定プランを作成し、暫定プランの期間中に丁寧なアセスメントを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階で他のサービスの説明を行い、ご家族様と話し合い必要であれば他のサービスの提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いと称しご利用者様と一緒に食器拭きやホールの掃除を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来設された時に、ご家族様からの支援プランなどご相談し連携した関係を築いている。ご入居者様からの要望をご家族様にお伝えし、ご協力を頂きながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様への面会の方には、丁寧に丁寧に対応している。またご家族様がご入居者様と外出しやすい様に丁寧な対応をしている。	馴染みの人や場所の情報を家族から得ている。現在はコロナにより、面会ができない状態にあり、馴染みの関係性が途絶えている。コロナの状況をみて面会制限を緩和し、関係性の継続支援に努めていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活活動(清掃・洗濯物など)を皆で行い、良好な関係が築ける様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や、他の施設に移った際、しばらくして落ち着いた頃に電話や手紙を出している。 またお葬式で使う遺影の写真の提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実態調査や入居後に伺った情報から、生活歴や価値観などを把握し、1人1人に合った言葉掛けや対応を実施している。	入居前の実態調査で本人、家族に思いや意向の確認をしている。意向は計画書に反映し、見直しのたびに必ず確認をしている。会話が困難な方は表情などから汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際に今迄の生活歴や今迄のサービス利用の詳細を聞き調査票に詳しく記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録は簡略化したが、申し送りノート・日々の申し送りに1人ずつ記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心として、ご本人様からの意見や希望、気持ちを聞き取り、ご家族様の希望等も随時聞いている。全てのスタッフから意見を聴取して、介護計画を作成している。	計画作成担当者が中心となり作成しており、居室担当者が個々の意向確認をし反映している。ケアカンファレンスを開催し、他の職員の意見を確認している。アセスメント、カンファレンス、モニタリングを定期的に行い、計画書の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録だけでなく、申し送りノートをホームで作り今後のケアの仕方等について随時記入し介護にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の要望があった場合には各階のフロア長が要望をまとめ管理者に報告を行い買い物代行等できる限り対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者様の中にパズル等、昔趣味で行っていたことを活かしホームでもご本人様のやる気がある時に行って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医の診療にて健康管理を行っている。急変時にも24時間対応の看護師と連携をとっている。	入居後は指定の訪問医の受診を原則とし、入居前のかかりつけ医の受診や他科受診も可能であるが通院は家族対応となっている。歯科医、歯科衛生士、看護師の訪問が定期的に行われており、適切な医療が受けられる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気軽に看護職員にご入居者様の状態を伝えたり、相談している。また看護師連絡記録に職員から看護師へ伝えたい事があれば記入をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し医療機関の医師、相談員などと随時連携している。入院後も病院にて実態把握を行い、ご家族様にも報告相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な往診で状態の変化について早期に把握するのと共に往診で終末期の判断が出た場合にはご家族様に来て頂き、訪問診療医より状態を説明した後に看取りの同意書を作成するようにしている。	重度化や看取りに関する説明は入居時に行っている。希望があれば訪問医、看護師、家族、職員で話し合いをしながら対応を検討するが、医療行為の範囲(訪問看護では難しい行為、延命治療など)によっては病院での対応となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応表を備えスタッフルームの見やすい場所に貼りだしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行うのと共に職員会議で避難場所や方法を決め、職員が行えるようにしている。	年2回、訓練を行っており、8月は火災による避難訓練を実施した。次回は11月、夜間想定火災訓練を予定している。水害時の階段昇降訓練の必要性を感じているが、事故防止のため、まずは職員のみで実施することを検討している。	火災での避難訓練を年2回しているが地震や水害等の訓練が行われていない。懇意にしている自治会長の協力を得て、地域の方との協力体制構築に向けた取組みに期待したい。

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お金のこと・子ども関係・職業等、自分から発しない場合は、その話題に触れないように配慮している。	利用者の触れて欲しくない内容のことは話さないようにしている。トイレ誘導の際、小声にしたり、入浴時には扉の奥にパーテーションを設置し、見えないように配慮したりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なんでも自由に発言できる雰囲気作りを心掛けています。自宅に電話をしたい入居者様で、ご家族様が同意されていれば、ホームの電話を使用して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の順番を後にして欲しいと言う希望があれば、それに沿っている。散歩の希望があれば、職員が対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで過ごされる服はいままでご本人様 が使用していた洋服を用意して頂いている。 また訪問理美容でカラーをしているご利用 者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	メニューをホワイトボードに書いて頂いたり、 テーブルを拭いて頂いている。食事は大方、 職員も一緒に摂り、片づけでは、食器洗いを 手伝って頂いている。	チルド食に変更し、職員の手間が少し省けた分、 丁寧に味噌汁を作ることが出来、味が向上したと 評価を頂いている。食事形態もミキサーやとろみ 等、その方に合ったものを提供できている。ホット ケーキ、たこ焼き、お好み焼きなどのおやつ作りを 楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	毎食後に、食事水分チェック表に記入して把握 している。摂取が少ない時は、理由を調査して改善 出来る様に対応している。必要に応じてキザミ食、 ミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、口腔ケアの介助、促しを実施して、 全員が清潔保持している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し統一した誘導、声掛け、支援を実施している。可能な限り残存能力を生かしトイレで立位保持をして頂いている。	その方に合った排泄リズムでの誘導や介助を行っている。出来る限りトイレでの排泄を心掛けているが、身体状況や夜間帯の対応として、紙おむつを使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂く。自費でヨーグルトを購入して頂く。自立歩行の可能な方には、積極的に歩行訓練して頂くなど。また、必要に応じて往診医より処方薬あり。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後にリハビリのあるご入居者様の入浴は、疲れてしまわない様に曜日や時間を調整している。またご本人の体調が優れない場合は日を改める等のケアを行っている。	身体状況などを勘案し、一般浴、シャワー浴、リフト浴など、その方に合った入浴支援を行っている。入浴剤を使用し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に短時間の昼寝が出来る様に介助をしている。夜間は静かな環境を作り、安眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様のお薬情報をスタッフがいつでも見られる所に保管しており、必要時に参照している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもって生活して頂けるよう、お手伝いなどに声を掛けたり、花の水やり・枯れた花を摘んだりして頂いている。散歩やちょっとした時間に外にでて頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響でご家族様や外部との交流がなくなっている。	現在、外出は近くへの散歩や玄関先での外気浴、家族付き添いの病院受診程度であるが、3月には感染対策をして広い公園に桜の花見に出掛けた。今後もコロナの状況を見ながら、外出や外食、買い物などを行いたいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ご本人様には現金をお預けしておらず、事業所で立替払いにしている。ご家族様のご意向で、2名様のみ少額の現金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけて差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は早番と夜勤開けが見守りを兼ねて掃除を行い、ホールは職員とご利用者様が掃除をし、トイレは早番が掃除している。また居室やホールの温度管理も快適に過ごせるよう調節している。	大きなガラス張りの玄関ホールは明るく、外の風景を楽しむことができ、家族面会の対応もガラス越しで行っている。フロアは季節の壁飾りを飾っている。環境整備に配慮し、室温、湿度も適切に管理しており、コロナ対策のオゾン発生機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合うご利用者様同士で席を近くにしたり、午後にはご本人様の状態に合わせ居室で休んで頂く等の対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄ご自宅で使用していたラジカセやテレビ等を持参できるよう対応している。	利用者と一緒に居室の清掃を行っている。リネン交換は職員が行い、清潔な居室を維持している。居室にはテレビなどを持ち込まれる方が多く、危険なもの以外は自由に持ち込むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室が分かりやすいように表示している。また廊下には手すりが付いており安全に歩ける様配慮している。		

